

## 人材支援委員会の検討結果報告（案）

人材支援委員会

## (1) 人材支援担当者のネットワーク構築

委員会の機能として、会員機関で連携して取り組むべき課題への対応に向け、各機関の人材支援担当者の交流及び情報交換を促進するため、担当者ネットワークの構築について、その必要性を含めて検討を行う。

## 【中間報告（1月幹事会）】

つくばには、人材支援にかかる既存のネットワーク（ダイバーシティサポートオフィス（DSO）や筑波女性研究者支援協議会など）が存在しており、これらの機能と重複することから、筑協として人材支援担当者間のネットワークを新たに構築する必要性は低いとの結論に至った。しかしながら、今後、ネットワーク構築のニーズが出てきた場合には、その必要性を含めて検討していくこととする。

## (議論いただきたいポイント)

- ・ 中間報告でもって最終報告にしてよいか。

## (事務局案)

○ つくばには、人材支援にかかる既存のネットワーク（ダイバーシティサポートオフィス（DSO）や筑波女性研究者支援協議会など）が存在しており、これらの機能と重複することから、少なくともメールベースでのネットワークを新たに構築する必要性は低いとの結論に至った。しかしながら、ネットワークの構築は筑協に求められている役割そのものであることから、今後、ニーズが顕在化した場合には、その都度、必要性を含めて委員会で検討することとする。

## (2) 委員会のオープン化の推進

委員機関以外の人材支援担当者への委員会の傍聴機会の提供、委員会資料や議事録の公開など、委員会のオープン化の推進に取り組む。

### (方針)

- 平成30年1月以降に開催した委員会から、原則、公開とし、会員機関の関係職員が傍聴できるようにするとともに、配布資料及び議事概要を筑協ホームページで公開する。

### (議論いただきたいポイント)

- ・人材支援委員会運営要領細則を資料4のとおりとしてよいか。

## (3) 人材の育成や活用に関する取組や課題の共有等

各タスクフォース（若手人材育成、グローバル人材育成、女性研究者育成、シニア人材活用）の取組や筑協求人情報掲載システムについて、各会員機関における人材の育成や活用に資するため、その枠組みのあり方や会員機関への情報提供等について検討を行う。

また、人材の育成や活用に関して、各会員機関が独自に取り組んでいる活動や課題等について、情報共有等に向けて検討を行う。

### 【中間報告（1月幹事会）】

- 筑波研究学園都市に初めて赴任する研究者等を対象として、筑波研究学園都市の概要、所在する機関の位置関係、共用施設、生活マップ、研究コミュニティなどの研究生活に主眼を置いた有用な情報の紹介を目的とした研修プログラムや研修用資料の作成について、その実現の可能性を含めて検討を進めていく。また、シニア人材向けのセカンドキャリアに関する研修の充実などの会員機関に共通するニーズについて、その対応を検討する。
- なお、タスクフォースという枠組みによる活動はその役割を終えたことから、タスクフォースは廃止するが、各機関における人材の育成や支援に関する活動に関する情報共有や意見交換については引き続き実施し、他の会員機関への情報共有の必要性や方法について検討していく。

(議論いただきたいポイント)

1. 新規赴任者に対する研修について

→資料5 参照

2. シニア人材の活用について

- ・シニア人材の活用については、会員機関が抱えるシニア人材の活用に関する課題やニーズが明らかでないこと、人材支援委員会として関与していく必要性が明確になっていないことから、以下に掲げる事項について、人材支援委員会各委員の所属機関における状況を把握し、シニア人材について共通するニーズを抽出し、人材支援委員会としての対応の必要性を含め、取り組むべき課題を検討してみてはいかがか。
- ・また、ここで言うシニアとはどの層を対象とするのか、例えば65歳以上を対象とするのか、定年退職者を対象とするのか、早期退職者も含めるのかどうか。
- ・さらに、必要に応じて他機関の状況や他機関が抱える課題・ニーズ等を把握するための調査を行うことを検討してみてはいかがか。
  - ・シニア人材向け研修実施の有無及び内容
  - ・再雇用率
  - ・再雇用後の業務内容
  - ・就業形態・雇用形態
  - ・シニア人材の活用に関する課題等

3. 人材支援の育成や支援に関する他機関への情報共有について

- ・情報共有や意見交換について、会員機関の人材支援にかかるニーズを掴むことを目的に、補佐役を通じてアンケート調査をしてみてもどうか。それを元に、人材支援委員会として何ができるか、今後の委員会で議論してはどうか。
- ・また、タスクフォース解散後においては、例えば、毎年、委員が所属する機関における人材支援に関する活動状況についての概要報告を作成し、これを基に委員会で意見交換等を行ってはどうか。

**(事務局案)**

- 筑波研究学園都市への新規赴任者を対象に、つくばでの研究生活に主眼を置いた研修資料を作成し、将来的には年1回の研修会を実施することの検討を進める。
- また、上記の新規赴任者への合同研修やシニア人材活用など、筑協会員に共通する人材支援に関するニーズの有無を調査し、今後の委員会で議論する。

**(4) 県・市等が実施するつくばコミュニケの実現に係る取組への支援**

G7茨城・つくば科学技術大臣会合の成果であるつくばコミュニケに関連して県・市・研究機関等などが実施するイベント等について、筑協のネットワークを活用した支援などについて検討を行う。

**【中間報告（1月幹事会）】**

- 茨城県、つくば市、研究機関等が実施するイベント等における展示や交流会などの実施について、関係機関との調整を支援。今後においても、主催者の要望に応じ、筑協のネットワークを活用し積極的に支援していく。

**(議論いただきたいポイント)**

- イベント等などへは、要望に応じて、引き続き積極的に支援することとしてはどうか。
- 人材支援委員会として、国等へ提言する必要があるか。

**(事務局案)**

- 茨城県、つくば市、研究機関等が実施するイベントや交流会などについての関係機関との調整や講師紹介など、要望に応じて引き続き積極的に支援していくとともに、筑波研究学園都市の特色ある取組を通して、つくばコミュニケの実現に向けて議論を深める。

以上